

項目別の学校評価：学校関係者評価結果公開資料

令和4年3月31日公開日

1. 学校の教育目標

本学校法人山陰理容美容学園は、教育基本法および学校教育法に従い学校教育を行い、理容師・美容師の優秀な人材を育成することを目的とする（寄附行為第3条）。

また、本学松江理容美容専門大学校は、学校教育法、理容師法および美容師法に基づき将来理容師・美容師になろうとするものに必要な知識・技術を授け、併せて徳性を涵養することを目的とする（学則第1条）。

さらに、学校訓として1) 国家・社会に寄与する2) 能力と知性を養う3) 強い意志を育てる4) 創造力・個性を伸す5) 良き社会人となる、ことをあげている。

上記の三つの柱を中心にして、本学の教育は『知識』と『技術』の双方が『相互に触発または融合』し合って、理容技術・美容技術を通じて地域社会へ還元できるよう実施している。

すなわち、教育理念・目標は、「教養分野」と「専門分野」の両者を涵養することにより、これらの『知識』と『技術』をバランスよく『融合』した人間力豊かな人材の育成であり、一言でいえば『知識と技術の融合』となる。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

令和3年度の

長期目標……………①『知識』と『技術』の『融合』

②学校教育法第1条校化→専門職大学等

中期目標……………①専門職大学等への整備・申請

②自己点検自己評価→学校関係者評価→第三者評価→専門職大学等

短期目標……………①教育施設拡充化による新校舎設計と建設

②専門職大学等の認可申請準備

③学生募集の強化と高校訪問の早期化（学務局）

④国家試験対策（実技試験・学科試験）

⑤オープンキャンパスの体験者率・出願者率・入学者率の向上

⑥クラス運営のクライシス・マネジメント（学務局）

⑦職業実践専門課程各学科コースの充実

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

評価項目	評価達成結果※					
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	⑤	4	3	2	1	N.A.
・学校における職業教育の特色は何か	⑤	4	3	2	1	N.A.
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	5	④	3	2	1	N.A.
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	5	4	③	2	1	N.A.
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	5	④	3	2	1	N.A.

※5：十分に達成 (100%) 4：概ね達成 (80%) 3：普通 (60%) 2：まだ不十分 (40%) 1：ほとんど進んでいない (20%) N.A.：当てはまらない

① 課題

〔保護者への教育理念・目標の周知徹底に改善の余地がある。〕

② 今後の改善方策

〔情報発信媒体（学生募集要項、パンフレット、オープンキャンパス、ホームページ、保護者宛文書等）を活用して、周知度及び理解深達度をチェックし、それを毎年度更新していくシステムを構築する。特にアンケート調査等によるエビデンスの取積・改善が重要である[学務局]。〕

③ 特記事項

〔 〕

(2). 学校運営

評価項目	評価達成結果※					
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	5	④	3	2	1	N.A.
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	5	④	3	2	1	N.A.
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	5	④	3	2	1	N.A.
・人事、給与に関する規則等は整備されているか	⑤	4	3	2	1	N.A.
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	5	④	3	2	1	N.A.
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	5	④	3	2	1	N.A.
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	5	④	3	2	1	N.A.
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	5	④	3	2	1	N.A.

※5：十分に達成 (100%) 4：概ね達成 (80%) 3：普通 (60%) 2：まだ不十分 (40%) 1：ほとんど進んでいない (20%) N.A.：当てはまらない

① 課題

〔専門職大学等の認可申請。
文部科学省の新制度『高等教育無償化制度（授業料等減免制度と給付型奨学金支給制度）』への対応。〕

② 今後の改善方策

〔第三者評価及び学校関係者評価の結果を重視し、学生満足度の更新をはかる。
情報システム化等の電子データの保存方法の見直しを実施する[学務局]。〕

③ 特記事項

〔社会に対し、ホームページにより情報公開を積極的に実施している。
教員間でデータ取扱いに差があり、共有データについては定期的な整理を実行することとする[学務局]。〕

(3). 教育活動

評価項目	評価達成結果※					
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	5	④	3	2	1	N.A.
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育達成レベルや学習時間の確保は明確にされているか	5	④	3	2	1	N.A.
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	5	④	3	2	1	N.A.
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	5	④	3	2	1	N.A.
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	5	④	3	2	1	N.A.
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	⑤	4	3	2	1	N.A.
・授業評価の実施・評価体制はあるか	5	④	3	2	1	N.A.
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	⑤	4	3	2	1	N.A.
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	⑤	4	3	2	1	N.A.
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	5	④	3	2	1	N.A.
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	5	④	3	2	1	N.A.
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	5	④	3	2	1	N.A.
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	5	④	3	2	1	N.A.
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	5	④	3	2	1	N.A.

※5：十分に達成（100%） 4：概ね達成（80%） 3：普通（60%） 2：まだ不十分（40%） 1：ほとんど進んでいない（20%） N.A.：当てはまらない

① 課題

定期的に学生からの評価を実施し、解析結果から学修成果の改善に反映させる。
外部関係者評価及び第三者評価を有効活用し、より充実した学生指導を実施する。

② 今後の改善方策

学長による3回/年の各教職員の評価体制があり、自己点検・自己評価に反映されている。
さらに、教員間の公開授業・相互参観の実現。学内外行事への取組強化。社会的ニーズをふまえたカリキュラムの見直しの必要性[学務局]。

③ 特記事項

企業との連携をホームページにより周知させ、より実践的な専門職教育が実行可能となっている。
業界からの外部講師の派遣及び臨地実務実習による現場教育の充実がなされている。
さらに、積極的な企業への情報発信及び企業からのニーズの情報収集、かつ業界関係者との技術交流が学生指導への効果を増幅させている。
特に、本年度はコロナ禍によりオンライン学修の実施など新しい指導方法の開発を行った。

(4). 学修成果

評価項目	評価達成結果※
・就職率の向上が図られているか	5 ④ 3 2 1 N.A.
・資格取得率の向上が図られているか	5 ④ 3 2 1 N.A.
・退学率の低減が図られているか	5 4 ③ 2 1 N.A.
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	5 4 ③ 2 1 N.A.
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	5 4 ③ 2 1 N.A.

※5：十分に達成（100%） 4：概ね達成（80%） 3：普通（60%） 2：まだ不十分（40%） 1：ほとんど進んでいない（20%） N.A.：当てはまらない

① 課題

退学率の低減化。
学校と卒業生間のネットワークシステムの強化と卒後動向の把握。

② 今後の改善方策

学生への経済的支援によって、退学率低減は期待できる（文部科学省の高等教育の修学支援・無償化制度の活用）。国家試験合格の対策・強化。学納金の分割払いへの対応。

③ 特記事項

学納金滞納学生に対する部局間連携による退学率低減のための対策効果の見える化[事務局][学務局]。
資格取得率向上のための担当教員の主因分析の実施。

(5). 学生支援

評価項目	評価達成結果※
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	⑤ 4 3 2 1 N.A.
・学生相談に関する体制は整備されているか	5 ④ 3 2 1 N.A.
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	5 ④ 3 2 1 N.A.
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	5 ④ 3 2 1 N.A.
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	5 4 ③ 2 1 N.A.
・学生の生活環境への支援は行われているか	5 4 ③ 2 1 N.A.
・保護者と適切に連携しているか	5 ④ 3 2 1 N.A.
・卒業生への支援体制はあるか	5 4 ③ 2 1 N.A.
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	5 ④ 3 2 1 N.A.
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	5 ④ 3 2 1 N.A.

※5：十分に達成（100%） 4：概ね達成（80%） 3：普通（60%） 2：まだ不十分（40%） 1：ほとんど進んでいない（20%） N.A.：当てはまらない

① 課題

学生の生活環境、心身の状況、学修状況の早期の把握と支援。
経済的な見通しがたたないまま入学し、在学困難に陥るケースが散見され、支援の範囲に限界を感じる現況もある。

② 今後の改善方策

心理カウンセラーの招聘。学生の心的ストレスに対する精神的サポートの整備。
保護者からの支援が断たれた学生に対する学費等の助成体制の強化（奨学金・給付金制度及び高等教育無償化制度）。

③ 特記事項

健康診断実施。AEDの設置。保護者会（三者面談）実施。
高校のキャリア教育のひとつとして実施される「上級学校の見学」の依頼を高校側より毎年度受けている。

(6). 教育環境

評価項目	評価達成結果※					
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	5	④	3	2	1	N.A.
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	5	④	3	2	1	N.A.
・防災に対する体制は整備されているか	⑤	4	3	2	1	N.A.

※5：十分に達成 (100%) 4：概ね達成 (80%) 3：普通 (60%) 2：まだ不十分 (40%) 1：ほとんど進んでいない (20%) N.A.：当てはまらない

① 課題

高等教育機関としての講義・実習体制の高度化。
新時代に即応した施設・設備の導入準備。

② 今後の改善方策

教育施設・設備に対する中長期的対策として新校舎の建設。
地域の災害防災対策としての備蓄食料の準備。

③ 特記事項

防災対策として外壁調査・修繕工事を完了した。
屋上の防水シート交換工事も施行した。防火防災訓練を年2回実施している。
さらに新型コロナウイルス感染症防止対策として、消毒薬設置やアクリル板パーティション設置及びフェイスシールドを整備し、今後もコロナ感染症対策に必要な備品消耗品の補充を行う。
また、コロナ対策として学生用の Zoom リモート講義対応のノート PC も完備している。

(7). 学生募集

評価項目	評価達成結果※					
・学生募集活動は、適正に行われているか	5	④	3	2	1	N.A.
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	5	④	3	2	1	N.A.
・学納金は妥当なものとなっているか	5	④	3	2	1	N.A.

※5：十分に達成 (100%) 4：概ね達成 (80%) 3：普通 (60%) 2：まだ不十分 (40%) 1：ほとんど進んでいない (20%) N.A.：当てはまらない

① 課題

高校生の動向調査及びオープンキャンパス参加者との継続的なコンタクト策の構築。
入学生確保のための高校訪問の早期化と強化。オープンキャンパスの重点化。理容学科の学生募集強化。
充足率（入学者数／定員数）の導入。

② 今後の改善方策

本学教職員の意見はもちろんのこと、本学の在学生・卒業生からの意見も積極的に取り入れる。
SNS等の情報発信の重点化。

③ 特記事項

的確な学生募集戦略において、本学教員間の説明能力に差がないことを確認し、広報戦略において、特に理容業界の情報収集を重点的に実行し、理容・美容の相違点及び類似点を若年層に詳細に説明し、出願までサポートしていく。
特に、今年度はコロナ禍により直接の高校訪問が困難となった。次年度以降も先行き不透明の中ではあるが、New Normal 時代へ向けての新たな学生募集様式を可及的速やかに構築することが求められる。

アフターコロナにおいては対面での活動が制限されるので、オンライン(Web ガイダンス)での活動が重要となる。

(8). 財務状況

評価項目	評価達成結果※					
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	5	④	3	2	1	N.A.
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	5	④	3	2	1	N.A.
・財務について会計監査が適正に行われているか	⑤	4	3	2	1	N.A.
・財務情報公開の体制整備はできているか	5	④	3	2	1	N.A.

※5：十分に達成 (100%) 4：概ね達成 (80%) 3：普通 (60%) 2：まだ不十分 (40%) 1：ほとんど進んでいない (20%) N.A.：当てはまらない

① 課題

私立学校としての中長期の財務基盤の安定要因は、入学生確保の強化である。

② 今後の改善方策

KPIモデル分析法による学生募集総反応数からみた最終出願者数の動態結果による学生募集活動の問題点を改善する。学生募集の強化ならびに退学者防止策が最重要となる。

③ 特記事項

会計士による学校法人会計の指導が実施されており、財務状況はホームページにて公開されている。今後の入学生確保については、特にダブルライセンスコースへの募集が重要となってくると考える。

(9). 法令遵守

評価項目	評価達成結果※					
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	⑤	4	3	2	1	N.A.
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	5	④	3	2	1	N.A.
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	5	④	3	2	1	N.A.
・自己評価結果を公開しているか	5	④	3	2	1	N.A.

※5：十分に達成 (100%) 4：概ね達成 (80%) 3：普通 (60%) 2：まだ不十分 (40%) 1：ほとんど進んでいない (20%) N.A.：当てはまらない

① 課題

教職員一人ひとりのクライシス・マネジメントの意識に差がある。

② 今後の改善方策

個人情報の取扱いに関しても、個人レベルで今だに認識に差があり、対策が急務である。

③ 特記事項

自己点検・自己評価及び自己改善の実施について、現在本学では専門職高等教育質保証機構による第三者評価を受審し、職業教育に卓越した高等教育機関としてその質が保証され、すべての項目において評価基準を満たし、認証されている。

(10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価達成結果※					
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	⑤	4	3	2	1	N.A.
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	5	④	3	2	1	N.A.
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	5	④	3	2	1	N.A.

※5：十分に達成（100%） 4：概ね達成（80%） 3：普通（60%） 2：まだ不十分（40%） 1：ほとんど進んでいない（20%） N.A.：当てはまらない

① 課題

〔令和3年度も新型コロナウイルス感染症の終息が今だ不透明の中、その多くを中止せざるを得なかった。〕

② 今後の改善方策

〔社会貢献・地域貢献の重要度は十分に理解できるが、今後は感染症・財務状況及びカリキュラム等についても総合的に考えて対応していくことが肝要である。〕

③ 特記事項

〔 〕

4. 評価項目の達成及び取組状況

学校関係者評価委員会名簿

令和4年3月31日現在

学校関係者評価委員会規程	氏名	年齢	性別	所属
第5条第1項第1号	長廻 秀雄	78	男	鳥取県理容組合、業界団体、就職先企業、施設の実習先、専門分野の業界、卒業生
第5条第1項第1号	岩上 清	75	男	鳥取県理容組合、業界団体職員、専門分野の業界、卒業生
第5条第1項第1号	佐藤 初美	80	女	島根県美容組合、業界団体、就職先企業、施設の実習先、専門分野の業界
第5条第1項第1号	山本 常夫	59	男	島根県美容組合、業界団体、就職先企業、施設の実習先、専門分野の業界、地域住民
第5条第1項第2号	伊藤 敏夫	72	男	島根県専門学校保護者連合会、保護者、PTA会長、地域住民

学校関係者評価委員会委員からの各評価項目について、さらに令和3年度においても本学の新型コロナウイルス感染症対策について、昨年度に引続き多くの意見があり以下の通りであった：

- (i) 令和3年度も新型コロナウイルス感染症の終息が未だ不透明の中、学生の学修の機会が失われることがないよう教職員一同全力で専門職教育を実施していることに安堵した。
- (ii) 昨年度の未曾有の経験から策定した本学の
『松江理容美容専門学校における新型コロナウイルス感染症の対応』
『新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る本学の取り組み方針について』
『新型コロナウイルス感染症予防のための学生生活ガイドライン』
『対面授業を行う条件』の実践は素晴らしいことである。
- (iii) 本年度、すべての学年学科の学生のために抗ウイルス高性能空気清浄機を購入したとのことは学校運営上予算面では大変ではあるが、是非とも本学からクラスターをだすことなく、オンデマンド型のリモート授業と対面授業とのハイブリッド講義を実行してほしい。

上記の学校関係者評価委員会からの評価結果ならびに改善方策等についての意見は、学校法人山陰理容美容学園松江理容美容専門大学の運営において、今後の自己点検・自己評価の方策の検討や、重点目標設定及び改善に活用することとした。

(令和3年度版公表:令和4年3月31日)